

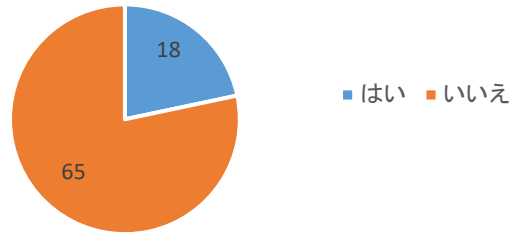
令和6年度アルコールに関するアンケート調査結果

アルコールパッチテスト実施(アンケート回答)者数:学部1回生83人

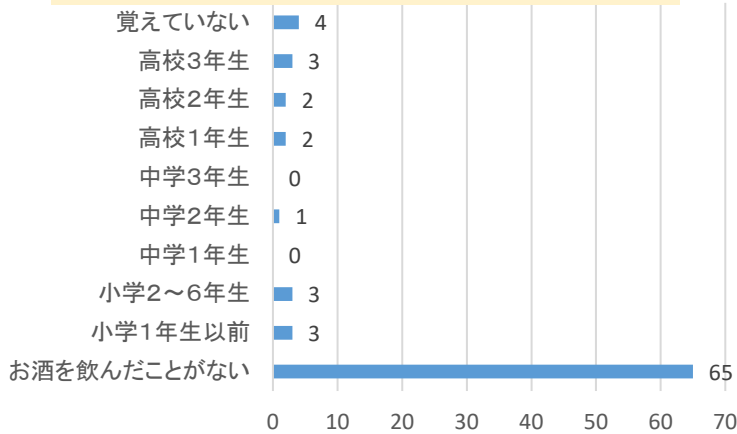
あなたの年齢をお答えください。



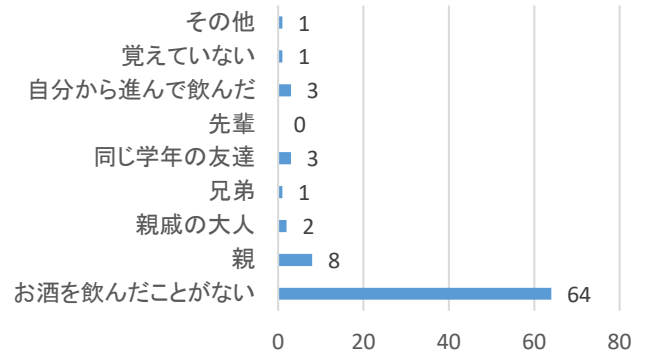
あなたはお酒を飲んだ事がありますか？1口以上のお酒を1度だけでも飲んだ事があれば「はい」お答えください



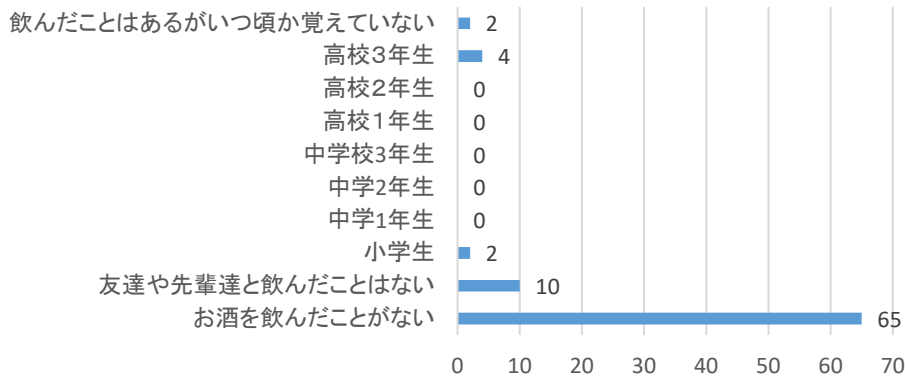
あなたがはじめてお酒を飲んだのはいつですか？



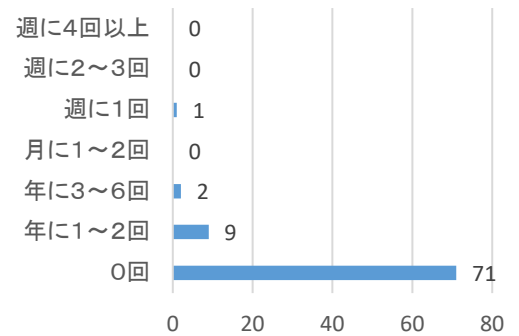
あなたが初めてお酒を飲んだときに、あなたにお酒をすすめた人は誰ですか？



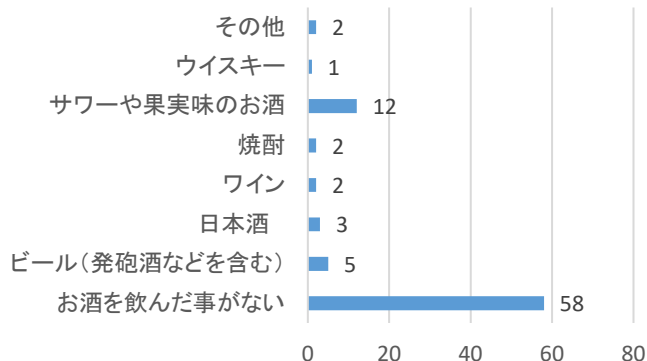
初めて友達や先輩などとお酒を飲んだのはいつ頃ですか？



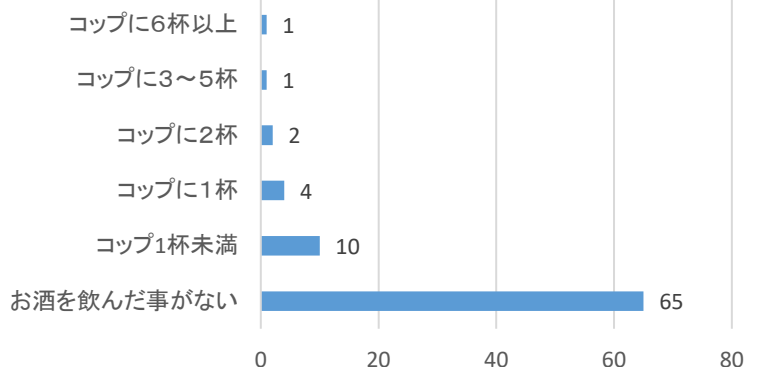
あなたはこの1年間に、どのくらいの頻度でお酒を飲みましたか。



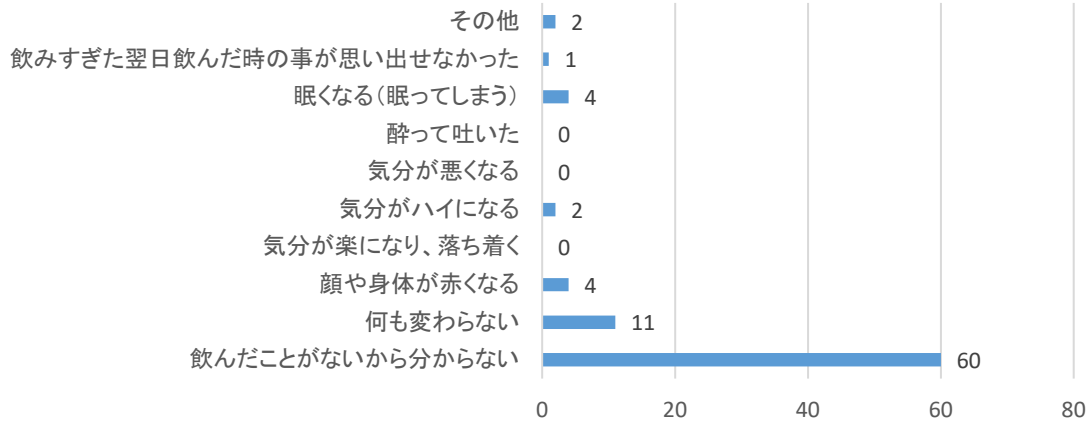
あなたが飲むお酒はどんな種類ですか？



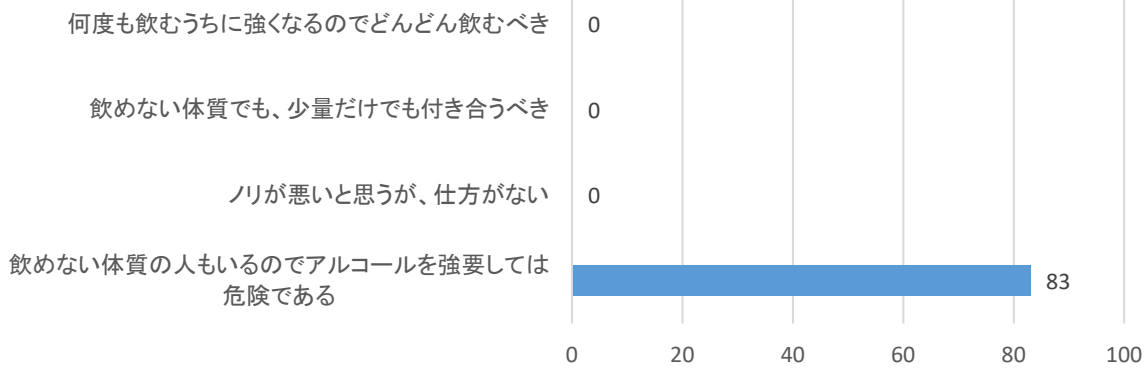
お酒を飲む時にはどのくらいの量を飲みますか？



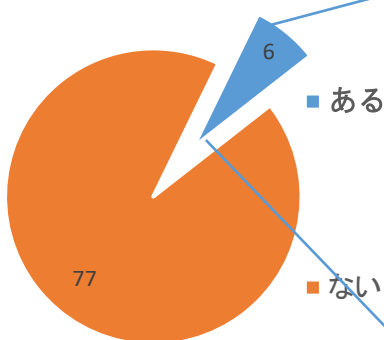
あなたはお酒を飲んだ時にどんな変化がありましたか？(複数回答可)



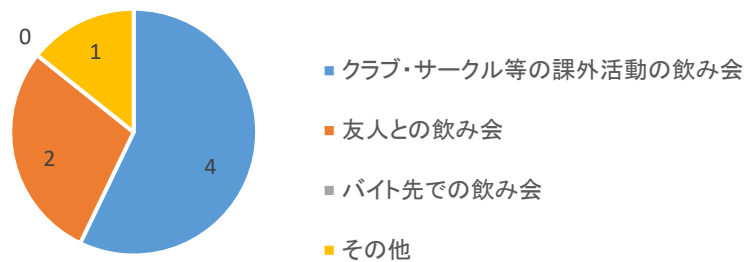
アルコールが飲めない人に対してどのように思いますか？



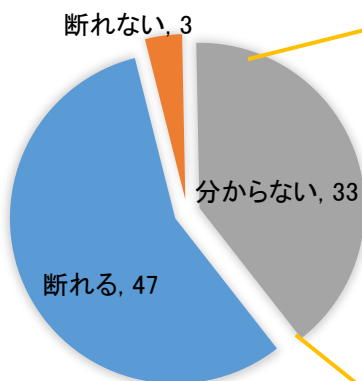
あなたはこの一年以内に、場の雰囲気や飲まされている現場にいたことがありますか？



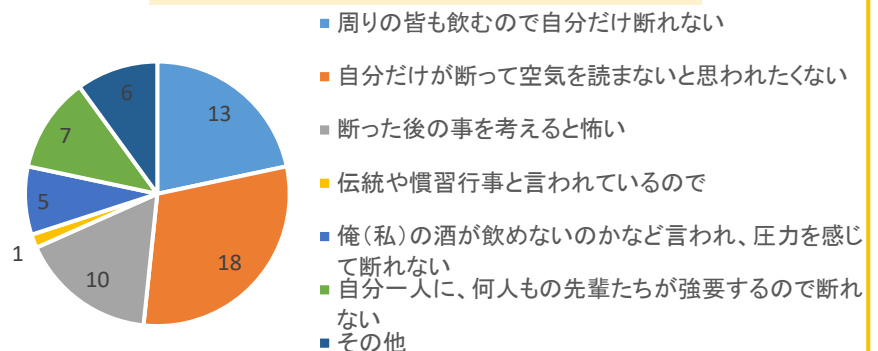
それは、どんな会合の出来事でしたか？



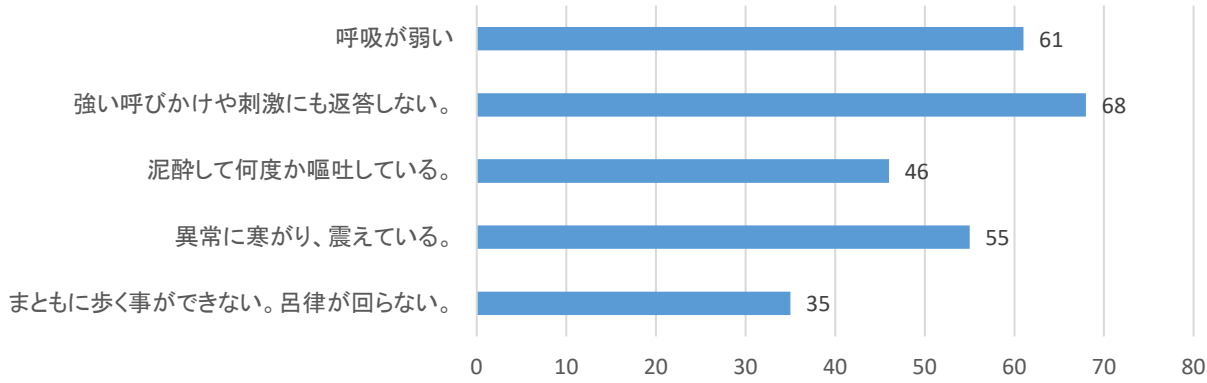
あなたはアルコールハラスメントを受けた際、断る事ができますか？



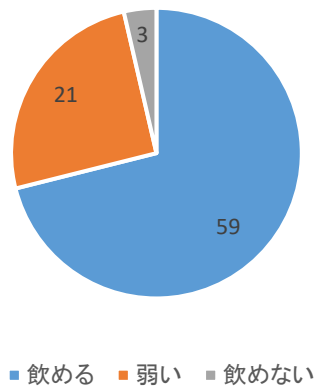
断れない、分からない理由を教えてください。



あなたは一緒に飲んでいた相手に異変を感じた場合、どのような症状があれば救急車を呼ぶなどの対応をとりますか？(複数回答可)

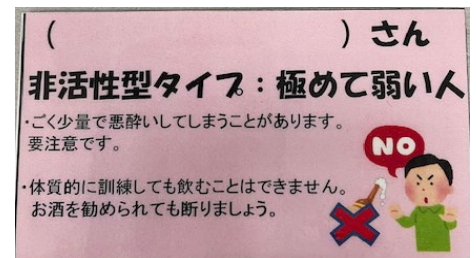


アルコールパッチテストの結果を教えてください。



◆保健センターでは、アルハラ防止のためアルコールパッチテストが「飲めない」の結果だった学生さんに「飲めませんカード」を渡しています。この取組みについてご意見をいただきました。(類似した意見は集約しています。)

- ・ 良いと思う。
- ・ すごくいいと思う。断りにくい人も勇気を持って使用すべきだと思う。
- ・ 飲めないことの説得力が増すので理解してもらいやすくなる。
- ・ はっきり断れない人もアルハラを防ぐことができていると思う。
- ・ 「飲めない」と言えない人もいると思うので意思表示が簡単に出来て良いと思う。
- ・ 強要された際に断る口実になると思います。
- ・ 活用できる人もいると思うが、カードを提示しにくいと感じる人もいると思う。
- ・ 第三者がそうしたことをしてくれるのはいいと思います。
- ・ そのカードを使えるのか怪しい。
- ・ みんなの話題作りになる。
- ・ 自分の結果を相手にも知らせやすいのでいいと思う。
- ・ カードがあれば大抵の人は飲ませるのを諦めると思うのでいいと思う。
- ・ そのようなカードを見たことがないのでなんとも言えません。
- ・ 持っていることで「お前飲めへんのや～」といじられる。
- ・ お酒が飲めないことを把握できる。
- ・ おもしろい取り組みだと思います。
- ・ このカードがほしいと思う人には良いと思う。
- ・ 口で飲めないことを言いづらい空気の時に使えるのではないかと思います。



【考察】

今年度は約1割の学生が実施し約9割の学生は未実施であった。未実施の学生の中には「高校でアルコール予防教育を受けたことがある」「理科の授業でアルコールパッチテストを実施した」などの声があった。また「適正飲酒啓発活動」「アルコールとの付き合い方」など飲酒事故を未然に防ぐための取り組みをしている酒類メーカーも多く、飲酒問題は社会全体の共通課題となっている。本学ではアルコールパッチテストを開始して10年目を迎えた。今回のアンケート結果では「アルコールが飲めない人に対してどのように思いますか？」の質問に対し「飲めない体質の人もいるのでアルコールを強要しては危険である」と回答した者が100%であった。飲酒の危険性やアルハラへの理解が進んでいることが分かる一方で、「アルコールハラスメントを受けた時に断ることができるか」の質問では約5割弱が「断れない・わからない」に回答している。断れない理由として「自分だけが断って空気を読まないと思われたくない」「周りの皆も飲むので自分だけ断れない」「断った後のことを考えると怖い」に多く回答しており、友人・上級生との人間関係を良好に保つために断れないと考えていることが分かる。「断る勇気」を持つことと共に「断れない人がいる」ことを理解し「断ることができる」「飲まない」選択ができる人間関係を構築することが望まれる。

また救急搬送の判断を問う質問では「強い呼びかけや刺激にも返答しない」「脈が弱い」「以上に寒がり、震えている」に半数以上がチェックしているが十分な理解ができているとはいえない。飲酒の場を共有する全ての者が急性アルコール中毒の危険性を理解し判断・行動できるよう、今後も一層啓発活動に取り組む必要がある。